

令和4年度地域医療支援病院

取 組 み 事 項				③地域連携を促進するための取り組み	④その他	
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
	1	糸島医師会病院 (H15.3.13)	一般150	福岡市医師会等で策定した「脳血管障害地域連携パス」「がん地域連携クリティカルパス」をもとに、他の医療機関とも連携して均てん化を図っている。	地域連携クリティカルパスに基づいて治療した患者のかかりつけ医等に対して内容等の説明を行い普及に努めている。 当院開催の研修会等でも説明し普及に努める。	福岡看護大学 30名
	2	独立行政法人国立病院機構九州医療センター (H16.2.27)	一般650 感染2 精神50	【福岡市医師会】 大腿骨頸部骨折・脳卒中・心筋梗塞、慢性腎臓病（CKD） 【福岡県医師会】 胃がんステージⅠ・胃がんステージⅡ/Ⅲ・大腸がんステージⅠ、大腸がんステージⅡ/Ⅲ・乳がん・肝がん・肺がん(術後パス・術後UFTパス)、前立腺がん(術後パス・放射線療法後パス)	毎年1回、大腿骨頸部骨折・脳卒中の地域連携パス実績を連携先へ報告し、登録医療機関との面談を行っていたが、令和4年度は新型コロナウイルスの影響で開催を中止とした。	・看護学校名は別紙添付 ・受入人数・受入期間 7,687名(令和4年4月～令和5年3月)
	3	公立学校共済組合九州中央病院 (H18.4.1)	一般330	・福岡市医師会方式脳卒中パス ・大腿骨頸部骨折地域連携パス ・福岡県がん地域連携パス：胃がん、大腸がん、肝がん、肺がん、乳がん、前立腺がん	福岡市医師会地域連携パスワークショップに参加し、パス分析のもと、医療の効率化、標準化を検討している。また、MSWが連携医療機関へ出向いてクリティカルパスの普及などの情報交換を行いシームレスな“顔の見える連携”を継続して実施している。	・53名 純真学園大学 ・72名 福岡看護大学 ・98名 第一薬科大学 ・28名 福岡市医師会看護専門学校
	4	福岡市立こども病院 (H19.9.1)	一般239	○福岡病院との「小児SAS検査連携パス」を継続使用。 ○移行期パスを策定検討中。 循環器領域における院内パス「移行期支援パス」を策定し、平成31年1月21日より使用開始。	福岡市立こども病院地域医療支援病院諮問委員会において、外部の有識者へ「移行期医療」や「在宅医療」等の問題を提起。	16校 501名 1. 精華女子高等学校、2. 福岡県私設病院協会看護学校、3. 福岡看護大学、4. 原看護専門学校、5. 福岡県立大学、6. 日本赤十字九州国際看護大学、7. 自衛隊福岡病院 准看護大学、8. 帝京大学 福岡医療技術部看護学科、9. 日本赤十字九州看護大学、10. 福岡女学院看護大学（小児看護）、11. 福岡県立大学、12. 公益社団法人 愛知県看護協会、13. 第一薬科大学、14. 福岡市医師会看護専門学校第2看護学科、15. 福岡高等学校、16. 福岡市医師会看護専門学校第1看護学科、
	5	国家公務員共済組合連合会浜の町病院 (H21.4.1)	一般468	福岡市医師会及び連携を取っている医療機関とともに、「大腿骨頸部骨折地域連携クリティカルパス」、「脳卒中地域連携クリティカルパス」を運用。 福岡県がん診療連携パス（胃がん・大腸がん・肝臓がん・肺がん・乳がん）	当院外来フロアに関連医療機関を掲示し、患者・家族への周知を図っている。	216名 福岡看護大学（看護学実習） 1,000名 福岡市医師会看護専門学校（看護専門課程） 1,333名 福岡市医師会看護専門学校（看護高等課程） 40名 日本赤十字九州国際看護大学 46名 福岡県看護協会 34名 国際医療福祉大学

取 組 み 事 項				③地域連携を促進するための取り組み	④その他	
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
福岡・糸島 (11病院)	6	福岡県済生会福岡総合病院 (H22. 4. 1)	一般373	大腿骨頸部骨折パスの運用の他、がん診療連携拠点病院である当院及び都道府県がん診療拠点病院である、九大病院、九州がんセンターを基幹病院とした、5大がんパスの運用をしている。	脳卒中連携パス、大腿部頸部骨折パスについては、福岡市医師会が中心となり、年3回のワークショップを行い情報交換の場となっている。がんパスについては、九州がんセンターが中心になり連絡協議会の地域連携部会に県内の拠点病院が集まり普及させるための取組みを協議。	受入人数666名 福岡県立大学 福岡市医師会看護専門学校 第一薬科大学 純真学園大学
	7	福岡市民病院 (H23. 4. 1)	一般200 感染症4	福岡市医師会及び関係医療機関とともに「脳血管障害地域連携パス」「大腿骨頸部骨折地域連携パス」を策定し、急性期病院である本病院及び市内の急性期病院を基幹病院として、回復期リハビリテーション病院や診療所、療養施設とも連携し、診療計画表(パス)を共有することで診療にあたる複数の医療機関が施設間の壁を越え、医療機関の機能に応じた地域完結型の医療を提供している。	年1回連携先の回復期リハビリテーション病院との間で、地域医療連携パス連絡会を当院主催で開催し、当該連携パスの実績報告や症例報告を行い、パスの運用における見直しや評価を行っている。また、福岡市医師会主催の地域連携ワークショップ(年3回)に毎回、多職種で参加し、顔の見える連携を積極的に行っている。	合計延べ人数：1,573人 【地域の看護学校実習生 1,514人】 福岡市医師会看護専門学校：492人 福岡女学院看護大学：421人 福岡看護大学：601人 【その他 59人】 認定看護師教育課程「感染管理」：34人 特定行為を含む認定看護師教育課程(B課程)：25人
	8	福岡赤十字病院 (H23. 4. 1)	一般509 感染 2	「大腿骨頸部骨折地域連携パス」、「脳血管障害地域連携パス」について、急性期病院として計画書を作成し、地域医療機関と連携し運用している。	福岡市医師会地域医療連携ワークショップに参加し、連携医療機関とパス運用について情報交換を行っている。また、がん診療連携拠点病院として連携医療機関と協力して、がん診療連携パスの普及に取り組んでいる。	日本赤十字九州国際看護大学、福岡看護大学、福岡県看護協会・受入人数・受入期間 507名(令和4年4月～令和5年3月)
	9	社会医療法人財団白十字会白十字病院 (H24. 7. 27)	一般282	<ul style="list-style-type: none"> ・大腿骨頸部骨折地域連携パス ・脳血管障害地域連携パス ・慢性腎臓病(CKD)地域連携パス(二次医療機関) ・糖尿病の地域連携において、当院独自の循環型連携パスを策定し運用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市医師会が主催する地域医療連携ワークショップに出席し、情報交換している。 ・地域連携パス契約医療機関へ年3回の定期訪問。 ・対象患者へ地域連携パスを積極的に使用。 	延べ219名 福岡市医師会看護専門学校 福岡看護大学 福岡県私設病院協会看護学校 精華女子高等学校 日本赤十字九州国際大学
	10	福岡記念病院 (H26. 12. 5)	一般239	・福岡市医師会との連携のもと地域連携クリティカルパス(大腿骨頸部骨折・脳卒中)を策定し、当院を計画管理病院として地域連携診療計画書「地域連携パス」を作成、地域連携機関との間で診療情報を共有・活用することで質の高い医療提供に努めている。	・患者様入院後早期にカルテより情報収集を行い地域連携パス対象者を把握、パス対象者であることを主治医・病棟看護師・リハビリスタッフへ報告、又、近隣の回復期病院に対し連携パス協力医療機関への参加を促進している。	・受入人数：2,444名 ・受入学校名：福岡医療専門学校、第一薬科大学看護学科

取 組 み 事 項				③地域連携を促進するための取り組み	④その他	
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
	11	福岡和白病院 (H26.12.5)	一般369	<ul style="list-style-type: none"> 福岡医師会方式（脳血管障害・大腿骨頸部骨折）地域連携パスに則り、地域と連携を図っている。 がん診療連携拠点病院としてがん地域連携パスの策定を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携ワークショップへの参加、パス対象者の選定と説明、医療連携室によるデータ管理。 福岡県がん診療連携病院協議会等へ参加し情報収集し、近隣医療機関へ訪問し普及活動を行っている。 	630名 福岡看護専門学校、令和健康科学大学
粕屋 (1病院)	12	独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター (H19.4.19)	一般 499 結核 38 感染症12	<p>①地域連携診療計画（大腿骨頸部骨折・脳卒中） による連携大腿骨頸部骨折と脳卒中に対し診療計画（クリティカルパス）を用いて連携病院と退院後の診療連携を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大腿骨頸部骨折連携病院 香椎丘リハビリテーション病院、北九州古賀病院、宗像水光会病院、荒巻整形外科、亀山整形外科、原三信病院香椎原病院、かい整形外科、東郷外科医院、古賀中央病院、北九州宗像中央病院・脳卒中連携病院、香椎丘リハビリテーション病院、北九州古賀病院、宗像水光会病院、原土井病院、篠栗病院、宮田病院、福岡みらい病院、竹村医院、池田内科クリニック、やの循環器内科クリニック、植田脳神経外科医院、北九州宗像中央病院 <p>②がん治療連携計画（5大がん等）による連携 がん診療連携拠点病院で策定した診療計画（5大がん連携パス）、「私のカルテ」を用いて連携病院と退院後の診療連携を図っている。</p> <p>③肺結核地域連携パスによる連携 発生地域を管轄する各保健所と連携した入退院の円滑化を図るため診療計画（パス）を用いて行政（保健所）と退院後の診療経過を観察する。</p>	<p>当院で行われる研修会・講習会等においてクリティカルパスの紹介を行うとともに、連携参加を呼びかけている。また、新たに地域連携クリティカルパスが必要な患者で、そのかかりつけ医が使用していない場合は、概要説明をおこないパスの参加を呼びかけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の看護学校実習生に係る受入れ状況 ・受入看護学校名 福岡女学院看護大学、福岡看護大学、日本赤十字九州国際看護大学、福岡看護専門学校、福岡水巻看護助産学校、純真高等学校看護専攻科 ・受入人数 285名 ●地域の准看護学校実習生に係る受入れ状況 ・受入准看護学校名 福岡看護高等専修学校 ・受入人数 86名
宗像 (1病院)	13	宗像医師会病院 (H12.3.31)	一般164	がん診療連携拠点病院等を中心に策定された地域連携診療計画に基づいた、がん治療連携に参加し、宗像医師会との連携のもとに、腫瘍内科・緩和ケア病棟を設置し、がんに関して地域で完了する体制を構築している。	宗像医師会を通じて普及させている。	178名 宗像看護専門学校、福岡看護高等専修学校、日本赤十字九州国際看護大学
	14	福岡大学筑紫病院 (H19.4.19)	一般308 感染2	<ul style="list-style-type: none"> * 筑紫医師会と3施設の基幹病院による「脳血管障害及び大腿骨頸部骨折地域連携パス合同運用会議」を年3回、連携医療機関との勉強会や意見交換会を開催し、連携を強化している。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、意見交換会は参加者を制限して実施、勉強会は会場参加とWEB参加によるハイブリッド式開催であった。 * 福岡県医師会および関係医療機関とともに「がん地域医療連携クリティカルパス」を策定し、福岡大学病院と連携してがん相談支援機能の充実に努めるとともに、がん医療の均てん化へ向けて取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> * 近隣の医療機関を訪問し、連携医療機関の登録を推進している。 * 関係医療機関との定期的な情報交換を行い、地域医療連携クリティカルパスの周知と効果的な運用についての検討を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受入看護学校名 筑紫高等看護学校、朝倉看護学校、福岡大学医学部看護学科、福岡看護大学、福岡国際医療福祉大学看護学部、福岡女学院看護大学 ・受入人数・受入期間 379名（令和4年4月～令和5年3月）

取 組 み 事 項				③地域連携を促進するための取り組み	④その他	
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルパス の種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る 受け入れ状況
筑紫 (3病院)	15	医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院 (H20. 4. 1)	一般600 感染2	福岡市医師会、筑紫医師会が主導している「脳卒中、大腿骨骨折の地域連携パス」を算定し近隣医療機関と連携を緊密に図っている。	定期的な会合に参加し、地域連携パスの検証、協議をおこなっている。	・受け入れ人数 442名 純真学園大学、高尾看護専門学校、九州看護福祉大学、福岡看護専門学校、アカデミー看護専門学校、精華女子高校、純真高等学校、帝京大学 自衛隊福岡准看護学院
	16	福岡県済生会二日市病院 (H24. 7. 27)	一般260	大腿骨頸部骨折地域連携パス 脳卒中地域連携パス	3カ月に1度、協力病院との勉強会を行っている（Web研修）	・受入看護学校名 高尾看護専門学校 筑紫看護高等専修学校 ・受入人数・受入期間 158名（令和4年5月～令和5年3月）
	17	朝倉医師会病院 (H12. 3. 31)	一般224	がんの地域医療連携クリティカルパス（私のカルテ）を運用している。	ホームページ上でのPR、会員Drへの研究会等を行っている。	176名（あさくら看護学校） 4名（緑生館）
久留米 (4病院)	18	聖マリア病院 (H20. 4. 1)	一般931 療養100 精神60 感染症6	1. がん地域連携パス 福岡県では、県の拠点病院として、九州がんセンター・九州大学病院の2病院が指定されている。地域拠点病院は13施設が指定されているが、当地域では、久留米大学病院、聖マリア病院で、高い水準のがん医療の均てん化など、全国各地でも適切ながん医療が受けられるように「がん相談支援センター」の設置など体制整備を図っている。 2. 久留米大腿骨近位部骨折地域医療連携パス 久留米医師会とも連携を取りながら、筑後地域の回復期病院・維持期施設と連携強化し、大腿骨近位部骨折連携パスの事務局として地域完結型の医療を実践している。医療制度改定で、定例会等一同に会した実施が不要になったが、各医療機関が相互に訪問し、顔の見える連携の継続を図っており、良い効果を出している。また、同会の世話人会は、年に1回程度、一同に会した学術講演会等の開催を計画している。 3. 筑後地域脳卒中連携の会 地域療連携パス 久留米医師会とも連携を取りながら、筑後地域の回復期病院・維持期施設と連携強化し、脳卒中連携パスの事務局として地域完結型の医療を実践している。医療制度改定で、定例会等一同に会した実施が不要になったが、各医療機関が相互に訪問し、顔の見える連携の継続を図っているおり、良い効果を出している。また、同会の世話人会は、年に1回程度、一同に会した学術講演会等の開催を計画している	がん地域連携パスについては、聖マリア病院ホームページで情報公開し、関係医療機関へ周知している	聖マリア学院大学2年生 113名、聖マリア学院大学3年生 111名、聖マリア学院大学4年生 113名、聖マリア学院大学専攻科助産学専攻 10名、久留米医師会看護専門学校（看護科）37名、緑生館（看護専攻科）52名、緑生館（総合看護科）83名、高尾看護専門学校（成人看護学実習）40名、あさくら看護学校 41名、アカデミー看護専門学校 4名、精華女子高等学校（看護専攻科）5名、八女筑後看護専門学校 35名、第一薬科大学（看護各部）71名、佐賀女子高等学校（衛生看護専攻科）4名、古賀国際看護学院 3名、久留米医師会看護専門学校（準看護科）87名
	19	社会医療法人天神会 新古賀病院 (H22. 4. 1)	一般250 感染8	筑後地区脳卒中地域連携の会に計画管理病院として参加。	筑後地区脳卒中連携の会では、連携パス運用に関する部会を行っており、看護師、リハビリ、栄養士、ソーシャルワーカーがそれぞれの部会に参加している。	古賀国際看護学院 2,289人 佐賀女子高等学校 156人 純真高等学校 60人 高尾看護専門学校 22人 合計 延べ 2,527人

取 組 み 事 項				③地域連携を促進するための取り組み	④その他	
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
	20	嶋田病院 (H23. 4. 28)	一般150	・大腿骨頸部骨折・脳卒中回復期パス ・循環型糖尿病地域連携パス（当院と地域の開業医による循環型パス）	・地域連携講演会の開催 ・コーディネーターの訪問による経過確認・申し送りを行っている（月32件/ave） ・コーディネーターの啓蒙活動140件/3ヶ月毎（年4回）	・受入人数73名（延べ557名） アカデミー看護専門学校 高尾看護専門学校 久留米医師会看護学校 精華女子高等学校
	21	田主丸中央病院 (H24. 7. 27)	一般178療 養72精神 93	久留米医師会、浮羽医師会の関係医療機関とともに以下のパスに参加。 大腿骨連携パス がん連携パス 脳卒中連携パス	院内) 職員に対して各会議で周知、活用を促している。 院外) パス策定病院の担当者と定期的に情報交換、転院時退院時に関係者へ報告。	64名 あさくら看護学校 精華女子高等学校看護専攻科 麻生看護大学校看護科
	22	公立八女総合病院 (H26. 12. 5)	一般300	八女筑後医師会および関係医療機関とともに「がん地域連携クリティカルパス」を策定し、かかりつけ医との連携を行っている	脳卒中連携パス、大腿骨頸部骨折地域連携パスの計画管理病院として取り組んでおり、年3回程度の会議を開催している。がん地域連携クリティカルパスにも取り組んでおり、新たに地域連携パスを開始する医療機関には、事前に連携先医療機関へ出向き運用の説明を行っている。併せて、CKD連携パスにも取り組んでいる。	・受入看護学校名 八女筑後看護専門学校、城北高校、杉森高校、九州看護福祉大学、他3施設 ・受入人数 757名 ・受入期間（令和4年4月から令和5年3月まで）
八女・筑後 (2病院)	23	筑後市立病院 (H30. 4. 1)	一般231 感染 2	・地域医師会との連携のもとに策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容 大腿骨頸部骨折地域連携クリティカルパス	・自施設の年報で、大腿骨頸部骨折地域連携クリティカルパス会議などの活動報告を行い、連携施設に配布している。 ・大腿骨頸部骨折地域連携クリティカルパス会議を年間3回行い、パスの内容の見直しや各施設の取り組みについて協議している。 連携医療機関：回復期 4施設、維持期 8施設 会議の実績：令和4年5月23日 急性期2施設、回復期4施設で開催 令和4年11月28日日 急性期2施設、回復期4施設で開催	82名 八女筑後看護専門学校（看護科・准看護科）
有明 (1病院)	24	大牟田市立病院 (H24. 7. 27)	一般320	がん地域連携パスは、大腸がん、胃がん、肺がん、乳がん、肝臓がん、前立腺がんの福岡県統一パスの利用促進を行っている。大牟田大腿骨近位部骨折地域パスは、当院を管理病院として4医療機関と連携している。また、脳卒中地域連携パスも、当院を管理病院として8医療機関と連携している。	本病院のホームページにおいて、がん地域連携パスの概要を説明している。大牟田大腿骨近位部骨折地域パス、脳卒中地域連携パスは、定期的に会議を開催して運営の改善、連携推進を行っている。	111名 大牟田医師会看護専門学校、帝京大学、杉森高等学校、九州看護福祉大学

取 組 み 事 項				③地域連携を促進するための取り組み	④その他	
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
飯塚 (1病院)	25	飯塚病院 (H17. 4. 1)	一般978 精神 70	福岡県医師会及び関係医療機関とともに「がん地域連携クリティカルパス」を策定し、がん拠点病院である当院及び九州がんセンターを基幹病院として、がん拠点病院以外の医療機関とも連携し、がん医療の均てん化を図っている。	大腿骨頸部骨折パスと脳卒中パスについて、地域連携パス研究会を実施し、関係施設と連携を図っている。リハビリ目的で転院された医療機関へ地域連携パスの啓発活動を行っている。	福岡県立大学、西南女学院大学、日本赤十字九州国際看護大学、近畿大学附属福岡高等学校飯塚医師会看護高等専修学校、学校法人博多学園博多高等学校、九州医療スポーツ専門学校麻生看護大学校
田川 (1病院)	26	社会保険田川病院 (H26. 12. 5)	一般335	<ul style="list-style-type: none"> ・地域共通のクリティカルパスではないが、地域医療機関並びに医師会等の意見を聞き共用できるクリティカルパスを策定し運用している。 ① 大腿骨頸部骨折地域連携クリティカルパス ② 脳卒中地域連携クリティカルパス ・地域がん診療連携拠点病院として福岡県がん診療連携協議会、福岡県医師会と共同で福岡県統一の地域連携クリティカルパスを策定し運用している。 ① がんの地域連携クリティカルパス（胃がん（ステージⅠ・ステージⅡ/Ⅲ）、大腸がん（ステージⅠ・ステージⅡ/Ⅲ）、肺がん、乳がん、肝がん、前立腺がん） 	<ul style="list-style-type: none"> ・当院における地域連携クリティカルパスは順調に運用できている。登録医療機関の実務者会議も定期的に開催し、情報の共有を図っている（現在24施設）。 ・田川医療圏では地域連携クリティカルパスを策定しているのは当院のみである。 ・登録においては、田川医療圏外の医療機関も参加している。 ・がんの連携パスに関しては二次医療圏内、もしくは筑豊ブロック内（飯塚病院と共催）での説明会等を行っている。 	56名 筑豊看護専門学校、九州医療スポーツ専門学校、高尾看護専門学校、古賀国際看護学院 ※当初は235名の受け入れ予定であったが、新型コロナウイルスの影響あり。
	27	小倉記念病院 (17. 4. 1)	一般656	北九州市医師会や関係大学病院、地域の医療機関で運用している北九州脳卒中・大腿骨近位部骨折地域連携パスと、北九州市医師会や地域の医療機関で運用している北九州循環器疾患地域連携パスを策定し、地域における包括的な疾患管理を行っている。	医師会を通じての運用説明会や、協議会参加。シートの見直し提案。	<ul style="list-style-type: none"> ・受入看護学校名 北九州小倉看護専門学校、日本赤十字九州国際看護大学、西南女学院大学 ・受入人数・受入期間 232名（令和4年4月～令和5年3月）
	28	製鉄記念八幡病院 (H17. 4. 1)	一般453	北九州地区の病院と連携し、北九州地域連携パス（脳卒中、大腿骨近位部骨折）を運用している。	脳卒中、大腿骨近位骨折の連携パスの運用に関しては、北九州地域連携パス協議会に参加し、研修や意見交換会により情報共有しながら各医療機関との連携強化を図っている。	236名を受入 八幡医師会看護専門学校 製鉄記念八幡看護専門学校

取 組 み 事 項				③地域連携を促進するための取り組み	④その他	
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
北九州 (11病院)	29	戸畑共立病院 (H17. 4. 1)	一般218	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州地域連携パス（脳卒中・大腿骨）を使用している。計画病院として維持期・回復期医療機関と連携を取り患者情報を共有し、医療の質向上に努めている。また連携医療機関へ訪問を行い情報共有を行っている。 ・がん地域連携パス（胃・大腸・肺・乳がん・肝がん・前立腺がん）を使用している。当院で治療後の患者を地域の医師と共同で診療し患者が安心して療養ができるような環境作りを積極的におこなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州地域連携パスの運用については、北九州地域連携パス協議会などに出席し情報収集を行ない、院内の委員会を通じ協議会の内容を発信している。また、運用状況なども委員会で報告し院内での情報共有に努めている。 ・がん地域連携パスの運用状況は、2回／年報告し、連携病院の新規獲得のため医療機関へ訪問し運用についての説明を行い普及活動を行っている。 	延べ961名 北九州市立戸畑看護専門学校、西南女学院大学、折尾愛真高等学校（専攻科1年生、2年生）、九州女子短期子ども学科
	30	独立行政法人地域医療機能推進機構九州病院 (H19. 4. 19)	一般575	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域連携クリティカルパス <ul style="list-style-type: none"> ・大腿骨近位部骨折、脳卒中、心筋梗塞、加齢黄斑変性症 ・地域医療機関と連携・協働し共通の基準を用いた治療を実施している。 2) がん地域連携クリティカルパス <ul style="list-style-type: none"> ・胃がん、大腸がん、肝がん、肺がん、乳がん、前立腺がん ・地域がん診療連携拠点病院である当院が、拠点病院以外の医療機関と連携・協働し、患者の治療経過を共有、安全で質の高いがん診療を行っている。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 地域連携クリティカルパス 地域関係者との定例会議に参加し、関連医療機関と面談を実施している。 2) がん地域連携クリティカルパス 福岡県がん診療連携協議会にて使用状況などを定期的に報告している。 	西南女学院大学：121名 福岡県立大学：51名 日本赤十字九州国際看護大学：8名
	31	独立行政法人国立病院機構小倉医療センター (H20. 4. 1)	一般350 精神 50	<p>新生児在宅医療移行地域連携パスの構築に取り組んでいる。退院に向けて医療者と患児家族との信頼関係を構築し、患児のQOLの向上と在宅医療における環境調整に努め、入院中からの介入、患児・家族の到達目標・課題の明確化、カンファレンスによる課題整理、退院後、継続した指導内容になるよう情報共有化を図ることが挙げられる。</p>	<p>パスの運用ではないが、下記の取り組みを実施している。平成21年より全国で初めて周産期医療特化型医師搬送用ドクターカーを運用。開業医で出生した新生児の急変対応に際し、小児科医を緊急的に派遣している。</p> <p>また、近隣産婦人科開業医での新生児健診のため、小児科医を派遣し密な連携体制を築いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科を有する地域周産期母子医療センターとして、精神疾患合併妊産婦の妊娠・分娩管理を実施しており、院内連携のみならず、地域社会（保健師等の自治体担当者）との連携も積極的に実施している。 ・平成30年度より隔月での合同連携カンファレンスを実施している。 	7,740名 西南女学院大学、福岡女学院看護大学、専門学校北九州看護大学校、北九州戸畑看護専門学校、福岡保健学院福岡看護専門学校、福岡水巻看護助産学校、福岡医健・スポーツ専門学校、福岡看護大学、北九州小倉看護専門学校
	32	独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院 (H21. 4. 1)	一般450	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州地区の病院と連携して大腿骨近位部骨折地域連携パス、脳卒中地域連携パスを使用 	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市大腿骨近位部骨折地域連携パス（病院長が協議会の長）及び脳卒中地域連携パス協議会への参画 ・院内医師へ医局会等で使用を促進 	192名（北九州看護大学校、小倉南看護専門学校、西南女学院大学、京都医師会看護高等専修学校、福岡県立大学

取 組 み 事 項				③地域連携を促進するための取り組み	④その他	
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルパス の種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る 受け入れ状況
	33	健和会大手町病院 (H21. 4. 1)	一般499 (2022年3月 ～一般449)	脳卒中連携パス 骨連携パス 大腿骨頸部	「地域連携パス協議会」に参加し、情報共有しながら各医療機関と連携強化を行い、院内での普及に努めている。	受入れ人数：延べ646人 ・健和看護学院 ・北九州市小倉看護専門学校 ・北九州市戸畑看護専門学校 ・製鉄記念八幡看護専門学校
	34	北九州市立医療センター (H23. 4. 1)	一般620感 染症16	福岡県がん地域連携パス 大腸がん(5件)、肺がん(13件)、前立腺がん(12件) その他のクリティカルパス 脳卒中(10件)	退院時にパスの利用を積極的に薦めている。	・北九州小倉看護専門学校(准 看護学科) 243名(令和 4年 4月～令和 5年 3月) ・小倉南看護専門学校 48名(令和 4年 4月～令和 4年 9月) ・西南女学院大学 23名(令和 4年 4月～令和 4年 9月) ・北九州市立看護専門学校 268名(令和 4年 4月～令和 5年 3月)
	35	独立行政法人労働者健康福祉 機構九州労災病院門司メディ カルセンター (H24. 7. 27)	一般250	脳卒中地域連携パス	「地域連携パス協議会」に参加し、情報共有しながら各医療機関との連携強化を図っている。	194名 北九州戸畑看護専門学校、日本 赤十字九州国際看護大学
	36	遠賀中間医師会おんが病院 (H24. 7. 27)	一般100	福岡県医師会のがん地域連携パス：胃癌、大腸癌、肺がん	医師会及び地域クリニックへ訪問。がん連携拠点病院への情報提供等。	・受入看護学校名 遠賀中間医 師会遠賀中央看護助産学校、日 本赤十字九州国際看護大学 ・受入人数・受入期間 110名 (令和4年4月～令和5年3 月)
	37	北九州市立八幡病院 (H30. 4. 1)	一般350	○脳卒中地域連携パス(北九州標準モデル) 9施設 44件 ○大腿骨近位部骨折地域連携パス(北九州標準モデル) 9施設 71件	関連医療機関に連携クリティカルパスの概要を説明するとともに、周知を図っている。	175名 八幡医師会看護専門学校、北九 州市立看護専門学校、西南女学 院大学、製鉄記念八幡看護専門 学校、美萩野女子高等学校

取 組 み 事 項				③地域連携を促進するための取り組み		④その他
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルパス の種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
京築 (1病院)	38	新行橋病院 (H22. 4. 1)	一般246	脳卒中地域連携パス	地域の医療機関へ訪問し、連携への協力を促している。	153名 ・下関看護リハビリテーション学校 ・豊前医師会看護専修学校 ・京都医師会看護専門学校 ・水巻看護助産学校 ・三萩野女子高等学校